



L コマンド

この章では、コマンド名が L で始まる Cisco Nexus 1000V コマンドについて説明します。

limit-resource erspan-flow-id minimum

許可される ERSPAN フロー ID の範囲を設定するには、**limit-resource erspan-flow-id minimum** コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

limit-resource erspan-flow-id minimum *min-val* **maximum** *max-val*

no limit-resource erspan-flow-id

シンタックスの説明

<i>min-val</i>	許可される最小の ERSPAN フロー ID 番号です。
maximum	ERSPAN フロー ID の最大範囲値を設定します。
<i>max-val</i>	許可される最大の ERSPAN フロー ID 番号です。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、許可される ERSPAN フロー ID を 1 ~ 80 という範囲に制限する例を示します。

■ limit-resource erspan-flow-id minimum

```
n1000v(config)# limit-resource erspan-flow-id minimum 1 maximum 80
```

次に、ERSPAN フロー ID の範囲をデフォルトに戻す例を示します。

```
switch(config)# no limit-resource erspan-flow-id
```

関連コマンド

コマンド	説明
erspan-id	ERSPAN ID (1 ~ 1023) をセッション コンフィギュレーションに追加すると共に、実行コンフィギュレーションに保存します。
show monitor session	実行コンフィギュレーション内に存在する ERSPAN セッション コンフィギュレーションを表示します。
monitor session	ERSPAN セッションを作成します。

line console

コンソール コンフィギュレーション モードを開始するには、**line console** コマンドを使用します。コンソール コンフィギュレーション モードを終了するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

line console

no line console

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例 次に、コンソール コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)#
```

line vty

ライン コンフィギュレーション モードを開始するには、**line vty** コマンドを使用します。ライン コンフィギュレーション モードを終了するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

line vty

no line vty

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例 次に、ライン コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)#
```

logging console

コンソールセッションへのメッセージのロギングをイネーブルにするには、**logging console** コマンドを使用します。

コンソールセッションへのメッセージのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging console [*severity-level*]

no logging console

シンタックスの説明

severity-level ログするメッセージの重大度レベルです。重大度レベルをたとえば 4 に設定すると、指定したレベル以上の重大度のメッセージ (0 ~ 4) がロギングされます。

重大度レベルは次のとおりです。

レベル	名称	定義
0	緊急	システムが使用できない *最高レベル*
1	アラート	迅速な対処が必要
2	クリティカル	クリティカルな状態 - デフォルト レベル
3	エラー	エラーの状態
4	警告	警告の状態
5	通知	通常であるが重大な状態
6	情報	情報メッセージのみ
7	デバッグ	デバッグ中にのみ表示

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

■ logging console

例

次に、コンソールセッションへの重大度レベル 4（警告）以上のメッセージのログをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# logging console 4  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging console	コンソール ログ コンフィギュレーションを表示します。

logging event

インターフェイス イベントをロギングするには、**logging event** コマンドを使用します。

logging event {link-status | trunk-status} {enable | default}

no logging event {link-status | trunk-status} {enable | default}

シンタックスの説明	link-status	すべてのアップ/ダウンおよびステータス変更のメッセージをロギングします。
	trunk-status	すべてのトランク ステータス メッセージをロギングします。
	default	デフォルトのロギング コンフィギュレーションが使用されます。
	enable	インターフェイス ロギングがイネーブルになり、ポート レベルのロギング コンフィギュレーションは無視されます。

デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例 次に、インターフェイス イベントをロギングする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging event link-status default
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging	ロギング コンフィギュレーションとログ ファイルの内容を表示します。

logging level

次のメッセージのロギングをイネーブルにするには、**logging level** コマンドを使用します。

- 定義済みファシリティ（たとえば license や aaa）からのメッセージ
- 指定した重大度以上のメッセージ

メッセージのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging level facility severity-level

no logging level facility severity-level

シンタックスの説明

<i>facility</i>	ファシリティの名前を指定します。																											
<i>severity-level</i>	ロギングするメッセージの重大度レベルです。重大度レベルをたとえば 4 に設定すると、指定したレベル以上の重大度のメッセージ (0 ~ 4) がロギングされます。 重大度レベルは次のとおりです。																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>レベル</th> <th>名称</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>緊急</td> <td>システムが使用できない *最高レベル*</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>アラート</td> <td>迅速な対処が必要</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>クリティカル</td> <td>クリティカルな状態 - デフォルト レベル</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>エラー</td> <td>エラーの状態</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>警告</td> <td>警告の状態</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>通知</td> <td>通常であるが重大な状態</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>情報</td> <td>情報メッセージのみ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>デバッグ</td> <td>デバッグ中にもみ表示</td> </tr> </tbody> </table>	レベル	名称	定義	0	緊急	システムが使用できない *最高レベル*	1	アラート	迅速な対処が必要	2	クリティカル	クリティカルな状態 - デフォルト レベル	3	エラー	エラーの状態	4	警告	警告の状態	5	通知	通常であるが重大な状態	6	情報	情報メッセージのみ	7	デバッグ	デバッグ中にもみ表示
レベル	名称	定義																										
0	緊急	システムが使用できない *最高レベル*																										
1	アラート	迅速な対処が必要																										
2	クリティカル	クリティカルな状態 - デフォルト レベル																										
3	エラー	エラーの状態																										
4	警告	警告の状態																										
5	通知	通常であるが重大な状態																										
6	情報	情報メッセージのみ																										
7	デバッグ	デバッグ中にもみ表示																										

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

同じ重大度レベルをすべてのファシリティに適用するには、次のコマンドを使用します。

- **logging level all level_number**

メッセージのロギングが可能なファシリティを一覧表示するには、次のコマンドを使用します。

- **logging level ?**

例

次に、AAA ファシリティからのメッセージのうち重大度レベルが 0 ~ 2 のもののロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging level aaa 2
switch(config)#
```

次に、ライセンス ファシリティからのメッセージのうち重大度が 0 ~ 4 のもののロギングをイネーブルにしてからライセンスのロギング コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging level license 4
switch(config)# show logging level license
Facility          Default Severity      Current Session Severity
-----
licmgr              6                        4

0(emergencies)    1(alerts)              2(critical)
3(errors)         4(warnings)            5(notifications)
6(information)   7(debugging)
```

```
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging level	ファシリティ ロギング レベル コンフィギュレーションを表示します。
logging level ?	メッセージのロギングが可能なファシリティを一覧表示します。

logging logfile

システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定するには、**logging logfile** コマンドを使用します。

設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging logfile logfile-name severity-level [size bytes]

no logging logfile [logfile-name severity-level [size bytes]]

シンタックスの説明

<i>logfile-name</i>	システム メッセージを保存するログ ファイルの名前を指定します。																											
<i>severity-level</i>	ロギングするメッセージの重大度レベルです。重大度レベルをたとえば 4 に設定すると、指定したレベル以上の重大度のメッセージ (0 ~ 4) がロギングされます。 重大度レベルは次のとおりです。																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>レベル</th> <th>名称</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>緊急</td> <td>システムが使用できない *最高レベル*</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>アラート</td> <td>迅速な対処が必要</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>クリティカル</td> <td>クリティカルな状態 - デフォルト レベル</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>エラー</td> <td>エラーの状態</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>警告</td> <td>警告の状態</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>通知</td> <td>通常であるが重大な状態</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>情報</td> <td>情報メッセージのみ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>デバッグ</td> <td>デバッグ中にのみ表示</td> </tr> </tbody> </table>	レベル	名称	定義	0	緊急	システムが使用できない *最高レベル*	1	アラート	迅速な対処が必要	2	クリティカル	クリティカルな状態 - デフォルト レベル	3	エラー	エラーの状態	4	警告	警告の状態	5	通知	通常であるが重大な状態	6	情報	情報メッセージのみ	7	デバッグ	デバッグ中にのみ表示
レベル	名称	定義																										
0	緊急	システムが使用できない *最高レベル*																										
1	アラート	迅速な対処が必要																										
2	クリティカル	クリティカルな状態 - デフォルト レベル																										
3	エラー	エラーの状態																										
4	警告	警告の状態																										
5	通知	通常であるが重大な状態																										
6	情報	情報メッセージのみ																										
7	デバッグ	デバッグ中にのみ表示																										
<i>size bytes</i>	(任意) ログ ファイルのサイズをバイト単位で、4096 ~ 10485760 バイトの範囲内で指定します。 デフォルトのファイル サイズは 10485760 バイトです。																											

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、*logfile* という名前のログ ファイルにシステム メッセージを保存するように設定し、その重大度レベルを 4 に設定する例を示します。

```
switch# config t  
switch(config)# logging logfile logfile 4  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging logfile	ログ ファイルの内容を表示します。

logging module

ログ ファイルへのモジュール メッセージのロギングを開始するには、**logging module** コマンドを使用します。モジュール ログ メッセージを停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging module [*severity*]

no logging module [*severity*]

シンタックスの説明

severity-level

ロギングするメッセージの重大度レベルです。重大度レベルが指定されていない場合は、デフォルトが使用されます。重大度レベルをたとえば 4 に設定すると、指定したレベル以上の重大度のメッセージ (0 ~ 4) がロギングされます。

重大度レベルは次のとおりです。

レベル	名称	定義
0	緊急	システムが使用できない *最高レベル*
1	アラート	迅速な対処が必要
2	クリティカル	クリティカルな状態 - デフォルト レベル
3	エラー	エラーの状態
4	警告	警告の状態
5	通知	通常であるが重大な状態 (デフォルト)
6	情報	情報メッセージのみ
7	デバッグ	デバッグ中にもみ表示

デフォルト

ディセーブル

モジュール メッセージのロギングを開始する場合に、重大度の指定を省略すると、デフォルトの「通知」(5) が使用されます。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、デフォルトの重大度レベル（重大度 5）でモジュール メッセージのログ ファイルへのロギングを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging module
switch(config)#
```

次に、モジュール メッセージのログ ファイルへのロギングを停止する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no logging module
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging module	ログ ファイルへのモジュール メッセージのロギングの現在のコンフィギュレーションを表示します。

logging monitor

モニタ（端末回線）へのメッセージのロギングをイネーブルにするには、**logging monitor** コマンドを使用します。この設定は、telnet および SSH のセッションに適用されます。

モニタ ロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging monitor [*severity-level*]

no logging monitor

シンタックスの説明

severity-level

ロギングするメッセージの重大度レベルです。重大度レベルが指定されていない場合は、デフォルトが使用されます。重大度レベルをたとえば 4 に設定すると、指定したレベル以上の重大度のメッセージ（0 ~ 4）がロギングされます。

重大度レベルは次のとおりです。

レベル	名称	定義
0	緊急	システムが使用できない *最高レベル*
1	アラート	迅速な対処が必要
2	クリティカル	クリティカルな状態 - デフォルト レベル
3	エラー	エラーの状態
4	警告	警告の状態
5	通知	通常であるが重大な状態（デフォルト）
6	情報	情報メッセージのみ
7	デバッグ	デバッグ中のみ表示

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、モニタ ログ メッセージをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
```

```
switch(config)# logging monitor
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging monitor	モニタ ログイング コンフィギュレーションを表示します。

logging server

システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定するには、**logging server** コマンドを使用します。設定を削除または変更するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging server host0 [i1 [use-vrf s0 [facility {auth | authpriv | cron | daemon | ftp | kernel | local0 | local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 | lpr | mail | news | syslog | user | uucp}]]]
```

```
no logging server host0 [i1 [use-vrf s0 [facility {auth | authpriv | cron | daemon | ftp | kernel | local0 | local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 | lpr | mail | news | syslog | user | uucp}]]]
```

シンタックスの説明

<i>host0</i>	リモート Syslog サーバのホスト名/IPv4/IPv6 アドレスです。
<i>i1</i>	(任意) 0 : 緊急、1 : アラート、2 : クリティカル、3 : エラー、4 : 警告、5 : 通知、6 : 情報、7 : デバッグ
use-vrf <i>s0</i>	(任意) VRF 名を入力します。デフォルトは management + VRF 名 (default management)
facility	(任意) このサーバへの転送時に使用するファシリティです。
auth	auth ファシリティを使用します。
authpriv	authpriv ファシリティを使用します。
cron	Cron/at ファシリティを使用します。
daemon	デーモン ファシリティを使用します。
ftp	ファイル転送システム ファシリティを使用します。
kernel	カーネル ファシリティを使用します。
local0	local0 ファシリティを使用します。
local1	local1 ファシリティを使用します。
local2	local2 ファシリティを使用します。
local3	local3 ファシリティを使用します。
local4	local4 ファシリティを使用します。
local5	local5 ファシリティを使用します。
local6	local6 ファシリティを使用します。
local7	local7 ファシリティを使用します。
lpr	lpr ファシリティを使用します。
mail	メール ファシリティを使用します。
news	USENET ニュース ファシリティを使用します。
syslog	syslog ファシリティを使用します。
user	ユーザ ファシリティを使用します。
uucp	Unix-to-Unix コピー システム ファシリティを使用します。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例 次に、デフォルトの発信ファシリティを使用して、指定した IPv4 アドレスのリモート Syslog サーバを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server 172.28.254.253
switch(config)#
```

次に、重大度レベル 5 以上の指定したホスト名のリモート Syslog サーバを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server syslogA 5
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging server	システム メッセージのロギングに関する現在のサーバ コンフィギュレーションを表示します。

logging timestamp

システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定するには、**logging timestamp** コマンドを使用します。デフォルトの単位に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}

no logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}

シンタックスの説明

microseconds	タイムスタンプはマイクロ秒単位です。
milliseconds	タイムスタンプはミリ秒単位です。
seconds	タイムスタンプは秒単位です (デフォルト)。

デフォルト

seconds

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、システム メッセージのタイムスタンプの単位をマイクロ秒に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging timestamp microseconds
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging timestamp	ロギング タイムスタンプ コンフィギュレーションを表示します。